

## 1. 計画策定の背景

伊達市、放射性物質による汚染があった。安全・安心のためには除染が必要と判断。早めに除染を進めていくため、独自に計画を策定していく。

## 2. 基本的な考え方

線量が高い地域から優先的に除染していく。また、住居周辺、生活空間から優先的に行なっていく。農地等も平行して行なっていく。放射性廃棄物が課題、市民の皆さんに仮置きなどの協力も得たい。

## 3. 現状と計画の方針

- (1) セシウムは表土の表面に存在。雨どいや側溝などが高線量に。
- (2) 除染は息の長い作業。弾力的な目標を設定し実践。
- (3) 除染は、封じ込めること。可能な限り取り除き管理する。
- (4) 放射線の特性を知ることが大切。放射線源を遠ざけることが大切。
- (5) 市民の皆さんにも協力いただきたい。
- (6) 除染を通して地域づくりを。国に向けての強いメッセージでもある。

## 4. 計画の目標と方向

住み続けられるための条件は①年間被ばく線量が1～20mSv。②土壤汚染5千ベクレル以下。特定避難勧奨地点がある地域は、年間20mSvを超えるおそれのある地域なので、当面、年間5mSv（1～1.5μSv/h）空間線量を目指す。こうした地域は、業者委託（請負）方式を主に実施。

すでに1～1.5μSv/h以下の地域でも除染に取り組む。自分たちでできる部分は市民協働でも実施していく。

農地・山林は、今後の実証実験を検証しながら計画的に実施。長い年月がかかる。

事業規模・・・全市除染の完了は10年以上が必要。

その費用は数十億～数百億円となる。国に財源手当てを求めている。

当面、特定避難勧奨地点の解消を目指して重点実施。

## 5. 今後の課題

最大の課題は放射性廃棄物。当面、市民の皆さんに協力（敷地内、地域内への仮置き）をお願いする。市でも、管理型の仮置き場を市内に設置できるよう検討していく。当然、国による最終処分場の早期設置を求めている。

財源も課題。国による財政措置を求めている。

## 6. 計画の管理と年度別実施計画

除染の結果を検証。随時見直しを行なうとともに、国・県の方針が出た時点で変更、見直しを行なう。年度別実施計画も見直しを行っていく。